

令和7年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立館山さざなみ学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・中学年は基礎の活用が目標値に達してはいないが、目標値近くまで点が取れている。
- ・高学年は目標値（区・全国平均）に達していないが、大きく下回っているものはない。
- ・どの学年も少人数の学習により、教師が個別に対応しながら学習を進めることができた。

(2) 課題

- ・中・高学年共に、基礎とその活用が弱い。既習事項が定着していないことが課題である。
- ・高学年は基礎基本の活用に課題がある。既習の知識を活用することが難しい。
- ・中学年は図形に課題がある。図形の性質や図形を読み取り答えを求めることに課題がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	全体的に目標値・平均値を下回っている。		
第5学年	全体的に目標値・平均値を下回っている。	全体的に目標値を下回っている。 (第4学年時)	
第6学年	全体的に目標値・平均値を下回っている。	全体的に目標値を下回っている。 (第5学年時)	全体的に目標値を上回っている。 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
教科全体として、基礎的な学習が定着していない。繰り上がりの計算では、計算のやり方は分かっているものの、計算ミスや記述ミスなどが見られる。	図形やデータを読み取ったり、文章から立式して答えを見つけたりすることに課題がある。一つ一つ図と言葉で説明すると理解できるのだが、文字だけでは難しい。	苦手意識はあるものの、学習に対して意欲をもって取り組もうとする態度はある。「苦手」が「嫌い」にならないように、かつ分かりやすい授業を行う必要がある。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数と計算やデータの活用に課題が見られる。計算を正確にすることが課題である。	立式し数は出せているが、答え方では不十分な説明になったり、式と文章が合わせられなかったりすることがある。式や数、データから読み取ることに課題がある。	答え方や読み取り方に課題があり、基本的な知識がないわけではない。授業中も意欲をもって取り組んでいる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・基礎的、基本的なことを定着させることに課題があるため、図や絵を使って分かりやすく教えたり、易しい問題から練習を繰り返し行ったりする。 ・課題が早く終わった児童には、個別の課題を出し、個に合った学習を行う。	・文章題やグラフ等をはじめ、既習事項を扱う様々な問題に触れさせる。 ・問題を解く際に、分かっていることと求められていることを整理して立式しやすくする。	・授業の導入で具体物を使ったり、ICT 機器を活用して動画を見せたりして、その単元を学ぶ意欲を持たせる。

（2）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・少人数の学習を活かして、新たに行う学習は具体物や絵、図を使うなど丁寧に指導する。 ・課題が早く終わった児童には、タブレットドリル等、個別の課題を出し、個に合った学習を行う。	・文章題やグラフ等をはじめ、既習事項を扱う様々な問題に触れさせる。 ・何を問われていて、既習事項の何なら解けるのかを考える際に、ヒントを教師が伝え、児童が解けるようにする。 ・問題を解く際に、話し合い活動を取り入れ多面的なものの見方を学ばせる。	・例えば牛乳とコーヒーの割合（比）など、実生活で関係するものに関連づけて学ぶ意欲を持たせる工夫をする。 ・自力で解決する場面や、友達と考える場面など、考える場を駆使して学ぶ場が楽しくなるようにする。